

消 息

シーボルト生誕二〇〇年記念国際医学シンポジウム

一、開催までの経過

ドイツのビュルツブルグ市でのシーボルト博物館の開館式典（一九九五年七月）に長崎大学医学部長として出席を依頼されたのが式典の二カ月前である。長崎大学とシーボルトの関係を考えれば、勿論たいへん光栄なことであり、ありがたうご招待を受けることにした。そして、せっかくの機会なので長崎大学とビュルツブルグ大学との交流を具体的に進めるべく、三名の友人の教授にその旨を連絡した上で式典に参加した。友人の教授の熱心な努力により、式典の前後に、ベルヘム学長、ウィルムス医学部長にもお会いでき、両校の姉妹校の協定を締結すること、シーボルト生誕二〇〇年記念国際医学シンポジウムを長崎で開催することの基本的な合意を得ることができた。

さて、長崎からの式典参加者はわずかに四名。そこでシーボルトは長崎の地で日本で初めて西洋医学を直接指導し、長崎大学医学部は日本で最古の医学校であることを主張しよう

と決心して帰国した。

二、医学シンポジウムについて

シーボルトに関係のある大学は、出身校のビュルツブルグ大学、日本の長崎大学、日本から帰国し著作に専念したライデン大学、そして晩年を過ごしたミュンヘン大学である。ビュルツブルグ大学との合意をもとに、他の大学にも参加をお願いし、四大学による医学シンポジウムが一九九六年九月二十六日から二十九日まで長崎大学医学部とハウステンボスで開催された。

シンポジウム開会式に先立ち、ビュルツブルグ大学と長崎大学の姉妹校の協定を締結（ライデン大学とはすでに姉妹校になっている）（写真1）。開会式にはグルーベル・ドイツ総領事、ヘルドリング・オランダ全権公使、木村日独協会副会長、酒井日蘭学会評議員兼日本医史学会常任理事、坪井日本医師会

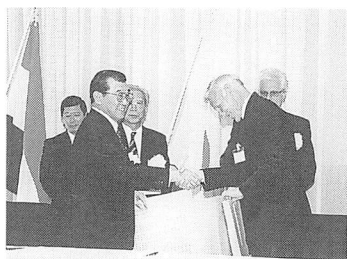


写真1 姉妹校協定調印式（ウィルムス医学部長と筆者）ブルグ大学との協定を締結（ライデン大学とはすでに姉妹校になっている）（写真1）。開会式にはグルーベル・ドイツ総領事、ヘルドリング・オランダ全権公使、木村日独協会副会長、酒井日蘭学会評議員兼日本医史学会常任理事、坪井日本医師会長、文部省学際局・岩本国際学術課長、そして長崎県知事、長崎市長のご臨席を賜わった。WHOからもご後援をいただき、ビュルツブルグ大学、ミュンヘン大学の同窓会からも八名の先生方がご出席になり、記念講演として、「ふおんしーぼると

の娘」等をお書きになった吉村昭先生に「医学者としてのシーボルト」をお話いただいた。

学術シンポジウムは核医学、内分泌、遺伝、免疫、ウイルス、感染症、活性酸素、血液、循環器、耳鼻科等十のセッションで、各セッションでは、今後の四大学の学術交流を目的として、各大学の演者がそれぞれの特徴ある研究成果を発表し、活発な質疑応答が医学部記念講堂で繰り広げられた(写真2)。

ハウステンボスでは、中西啓先生、宮坂正英先生の司会のもと、ライデン大学のポイケルズ教授に「シーボルトの生涯と業績」を講演していただいた。締めくくりに各医学部長が将来の共同研究の課題についての展望を発表し、当初の目的は達成されたと思っている。さらに、国際交流を深めるために、「長崎シーボルト賞」が設立された。

医学シンポジウムに引き続き、ハウステンボスのご好意によりシンポジウム組織委員会主催で「シーボルト生誕二〇〇年記念特別展覧会」を約四十日間開催し、ライデン国立民族学博物館より川原慶賀の「長崎歳時記」と「人の一生」を展示するとともに、長崎大学図書館医学分館からシーボルトの「日本」、「日本植物誌」、「日本動物誌」、「日本最古の聴胸器等」門外不出の五十点を出品。当初の予想を超えて、約十五万人の入館者があったとのことである(写真3)。



写真2 学術シンポジウムの参加者



写真3 シーボルト特別展覧会のテープカット

三、まとめ

シーボルト生誕二〇〇年にあたり、シーボルトの医師としての偉業を再認識したこと、最新の研究情報の交換と学術交流を推進できたこと、そして長崎大学発の情報を医学関係者のみならず、一般の方にも国内外に発進できたことを、組織委員長として無上の光栄と信じ、多くの関係者の方々に深甚の謝意を表したい。このシンポジウムが単なるイベントに終わらず、シーボルトの功績が未来の国際交流の推進につながることをお願い願うものである。

(長崎大学医学部第一内科、教授
シーボルト生誕二〇〇年記念
国際医学シンポジウム組織委員会、委員長

長瀧 重信)